

平成30年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立戸田翔陽高等学校) (S07)

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。</li> <li>かけがえのない存在、必要とされる存在としての自尊感情及び徳性を涵養させる。</li> <li>志を高く持たせ、第一希望の進路を実現させる。</li> <li>学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月8日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】基礎学力が身につけていない生徒がいる一方で、学習する意欲の高い生徒も多数いる。  【課題】「主体的・対話的で深い学び」の取組を進めて、「言語能力」を育成する必要がある。	生徒一人一人の学習状況を改善する。	①学習サポーターや多文化共生推進員等、県の事業を活用し、一人一人の学習環境を整える。	①成績不振者(評定1)の割合を昨年度以下。(昨年度24.0%)	○県の事業を活用して、授業や定期試験前の補習など、個別の学習指導を丁寧に行った。成果の上があった者もいるが、全体的には一層の努力が必要である。 ②学期末の成績不振者の割合は27.3%で、昨年度同時期と比較して微増した。達成は、難しい状況である。  ○教員相互の授業観察を実施して意見交換を行うなど、各教科で学習支援の指導工夫に取り組んだ。生徒の満足度に変化は見られたが、全体的には一層の努力が必要である。 ①生徒授業評価は、予定通り行い、アンケートを実施した。「よく理解できた」、「理解できた」と答えた生徒の割合は、国語79.7%、数学56.3%、英語54.3%であった。 ②公開授業及び授業観察は、計画通り実施できた。生徒の満足度の数値を分析すると「わかりやすい言葉の授業内容に変わり、生徒の授業を受ける姿勢にも変化ができた」など、学びの欲求の変化が見られた。	B	学習意欲の高い生徒が多く在籍している反面、基礎学力が身につけていない生徒が在籍している。今後とも学習の基礎・基本となる「言語能力」の育成を指導する。また、今後も教員の指導力向上や資質向上を図る取組を継続的に行う。	・成績の二極化について、中学校でも同様のことが言える。生徒自身が選択した授業が、どのように就職や今後の自分の進路に結びつくのか、より具体的に指導することで、二極化解消に効果が表れるのではないかと。  ・中学校でもAL(アクティブラーニング)の取組を積極的に行っている。ALを取り入れることで、生徒にどのような学力が付いたか検証していく必要がある。
		「言語能力」を育成するための指導内容を工夫する。	①教科毎に「何ができるようにするか」を明確化し、研究して学習支援を行う。  ②未来を拓く「学び」推進事業を活用し、授業を公開する。また、教職員相互の授業観察を実施する。	①生徒の授業評価を2回実施し、昨年度以上の理解度が得られたか。(昨年度1年次国77.1%、数64.3%、英56.2%)  ②5月・10月に協調学習や研究授業を外部に公開できたか。また、年次研修研究授業以外に、年1回以上教員相互の授業観察が実施できたか。				
2	【現状】他者とのコミュニケーションを取ることが苦手な生徒や基本的な生活態度が身につけていない生徒がいる。  【課題】家庭や地域と連携して、中途退学を防止するため、生徒の学校生活適応力を高める。	積極的な生活指導を実施する。	①ノーチャイム・ノーアナウンス・整容指導・声掛け指導等、全教職員が統一基準で生徒指導を行う。	①授業出席率を(昨年度87.5%)以上。中途退学者数(昨年度36名)の減少。遅刻者数(昨年度7.4%)の減少。	○必要に応じて年次集会で講話を行うなど、生活指導を積極的に実施することができた。生徒の学校生活が安定したことにより、卒業生数が昨年より増加した。 ①中途退学者数は、1月末現在35名。担任のきめ細かな指導により、生徒の学校生活の安定を生んでいる。 1月末現在授業出席率87.3%、遅刻者数については7.3%である。  ○新たな取組として年度中間に全体での振り返りを実施したところ、各分掌相互の進捗確認や方策の修正ができ、より組織的で効果的な生徒対応ができた。 ①今年度より、中間(10月)に振り返りを実施した。教職員は、全体で振り返りを行うことにより、指導の継続や見直しのよい機会となった。 ②教育相談部の教職員研修は、企画担当者が生徒の現状の課題等を検討し、「自殺防止と早期発見」・「発達障害への理解と対応」をテーマに2回研修会を実施した。実施後のアンケートから「生徒対応の仕方を工夫した」といった成果が認められた。	A	望ましい対人関係を構築し、安定した生活を送る生徒がいる反面、基本的な生活態度の身につけていない生徒が多数いる。今後とも学校、家庭、地域と連携した指導体制で、生徒自ら進んで取組む、望ましい生活態度の育成を行う。	・先生方が、一所懸命に生徒を指導していることが、生徒の様子を見ると良くわかる。今後も継続して、さらに良い学校にしていきたい。  ・生徒の意見や考えが、しっかりしている。数年前と違い、生徒も変わってきていると感じる。  ・中学時代不登校経験があって、入学した生徒の追跡調査などをしてはどうか。
		教育相談体制を整え生徒に自己肯定感を持たせる。	①月2回以上SC、SSW、教育相談員と協議する会議を設定し、各分掌が連携して組織的な取組を実施する。 ②専門研究者等の講師を招聘して教職員研修を実施する。	①10月に全体で振り返りを実施し、情報の共有ができたか。  ②年間2回以上、教職員対象の研修会が実施できたか。				
3	【現状】自己実現への意欲や上級学校への進路希望が高い生徒がいる一方、就労意識が低い生徒がいる。  【課題】上級学校への進学や社会人としての進路実現や自己実現への進路指導や心構えの醸成等喚起が求められる。	外部関係機関と積極的に連携しながら、系統的な進路指導を行う。	①授業「産業社会と人間」と進路指導を連携させる。 ②進路別説明会や模擬面談を2回以上実施する。 ③資格試験を定期的実施する。 ④外部機関との連携で、生徒面談と体験学習を実施する。 ⑤民間の自学自習システムを活用する。 ⑥基礎力診断テストを年度当初と年度末実施する。	①1・2年次調査で、進路未決定率の減少。(昨年度4.8%) ②進路実現決定率(昨年度81.5%)の増加。 ③資格試験合格者数(昨年度115人)増加。 ④2回の生徒面談と、1年次中心にSSTが3回実施できたか。 ⑤実施データの活用と、利用者の進行管理を各学期確認できたか。 ⑥資料を基に、年次会等で情報共有ができたか。	○外部機関と連携してスタディ・サプリやソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に活用できた。卒業後の進路を見据え、学校生活を充実させている生徒が増えたが、全体的には一層の努力が必要である。 ①年次と分掌が連携して、生徒の進路意識の醸成を丁寧に行い、昨年度と同様な数値であった。(4.8%) ②進路決定率は、現在時点で72.6%であり、進学を希望する生徒は、現在も活動中である。また、これからが第1志望校の試験があり、皆努力している。 ③外部資格試験の受験を奨励し、国語科、社会科、英語科、福祉科、商業科の各種検定等を行い、123名が各外部資格に挑戦し合格した。 ④生徒は外部の指導員の方と面談を行い、自らの進路意識の醸成に繋がった。 ⑤スタディ・サプリは55名が参加した。生徒は、専用ルームで自学自習を行う。しかし、教員の生徒への進行管理が十分に指導できない部分があった。 ⑥基礎力診断テストは、2回実施した。資料から得る生徒情報を各教員が共有して、今後も生徒の進路実現や自己実現に繋げる取組を行う。	B	卒業までの系統的な進路指導で、生徒が自ら望む進路実現や自己実現目指す取組は、本校の形となりつつある。一方で、将来の目標が定まらない生徒への指導の取組が課題である。	・高校の進路指導は、自己実現の幅が広く、指導も大変であると推察する。生徒の意思決定を早くさせること、他力でなく自分自身で決めていくスタンスを身に着ける指導を、引き続きお願いしたい。  ・二者面談の機会をさらに増やすことにより、生徒は、自分自身を見つめ直す「場」や「時間」が増える。また先生は、生徒の内面的な気持ちより把握でき、お互い良い効果が期待できるのではないかと。
		地域との情報交換を密に行い、連携を強化する。	①地域の教育力を活用してインターンシップを実施する。 ②地域行事等のボランティア参加を積極的に行う。	①インターンシップの参加者数の増加。(昨年度25名) ②ボランティア等に、生徒が延べ100人以上参加できたか。				
4	【現状】本校の教育内容と教育活動は、理解されつつあるが、今後も一層広報を推進する必要がある。  【課題】地域との交流や積極的な広報活動が一層求められている。	地域との情報交換を密に行い、連携を強化する。	①地域町内会へアンケート調査を実施する。 ②定期的なホームページの更新や年間4回以上の学校説明会を実施する。	①アンケート結果を全教職員で共有し、認知度向上対策に活かされたか。 ②I部II部の入試倍率が昨年度以上、III部の定員が確保できたか。(昨年度I部1.29倍・II部1.40倍・III部0.69倍)	○地域活動に参加する生徒数も毎年増加して、連携はますます強くなっている。 ①今年度、指導の在り方を検討してインターンシップの参加(11名)に加え、「産業社会と人間」の夏季休業中の宿題として、企業研究レポートの提出や大学のオープン・キャンパスに参加させた。今後も生徒の進路希望に沿った指導を行う。 ②ボランティア活動への参加は、延べ人数105人参加した。参加生徒について、「とても協力的で地域の方々とよく連携していた」と、主催者の方から感想を頂いた。  ○例年の取組に加えて、敷地内に新たに建築される特別支援学校についても、ホームページや説明会で情報を積極的に発信した。また、生徒が安定した生活を送ることにより、地域の方から高い評価を得ている。平成31年度入試倍率が昨年度を下回り、次年度は一層の努力が必要である。 ①町内会の会員のアンケートを行い、多数のご意見を頂き、公表した。(3月8日現在) ②平成31年度入試は、(I部1.14倍・II部1.18倍・III部0.71倍)である。(3月8日現在)HPや学校説明会で生徒の活動状況を紹介することにより、今後も地域の方々への学校理解度を上げる取組を継続して行う。	A	地域との交流や積極的な広報活動で、生徒を高く評価される外部の方の声を頂いた。今後とも、本校の教育内容と教育活動を積極的に広報して、生徒の学校生活の様子を伝える取組を行う。	・地域の方が、文化祭に沢山来校するなど、予想以上に良い交流ができていますと感じている。  ・町内会のアンケート結果より、「良く挨拶する」「落ち着いている」など、評価の良い意見が多く見受けられた。  ・学校周辺にはいくつかの自治会があるので、複数の自治会主催のボランティアに参加すると良い。  ・翔陽生が、積極的に祭りボランティアなどに参加していることを、もっと地域にPRすると良い。

